

目指すべき都市の骨格構造

(1) 都市の骨格構造の設定方針

○宮古市都市計画マスタープランの目指すべき「将来都市構造」では、土地利用ゾーニングとして「臨海部定住ゾーン」、「市街地ゾーン」、「里山共生ゾーン」、「自然・田園環境保全活用ゾーン」の4つのゾーン、都市機能が集積する拠点として「中心拠点」、「地域拠点」、「生活拠点」の3つ拠点、都市間や地域間を連携する交通ネットワークとして「都市・地域連携軸」を設定しています。

○本計画では、「将来都市構造」の4つの土地利用ゾーニングを基本としつつ、土地利用の方針を即地的に示すためゾーンをより細分化したエリアを設定し、都市機能が集積する拠点を再編します。

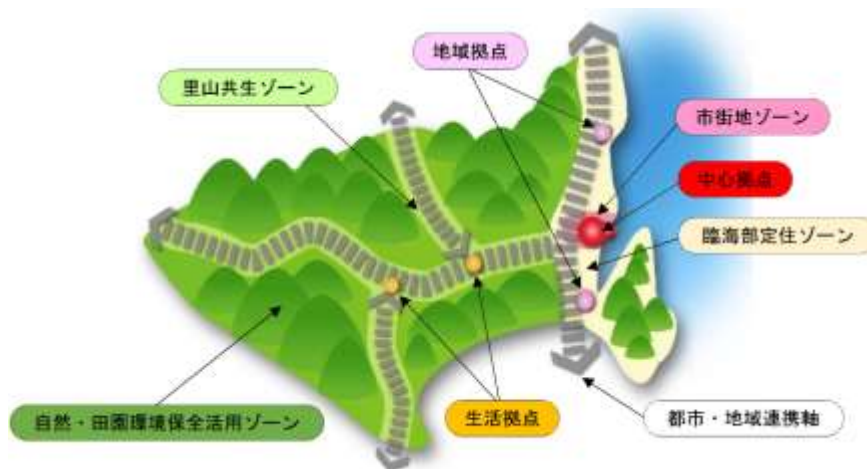
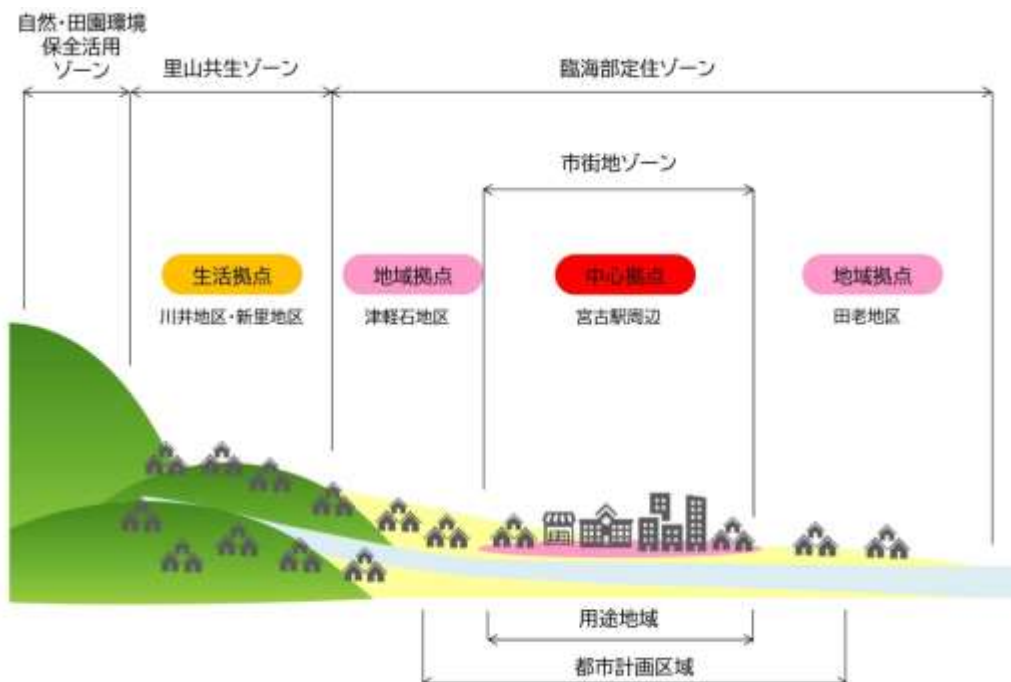


図 将来都市構造のイメージ（都市計画マスタープラン）

図 将来都市構造のイメージの断面図（都市計画マスタープラン）



(2) エリアの設定とイメージ

- 宮古市総合計画では、都市の将来像として『「森・川・海」と人が調和し共生するやすらぎのまち』を掲げ、「自然と共に生きるまちづくり」「健やかで心豊かなひとを育むまちづくり」「多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくり」をまちづくりの基本的な方向性としています。
- また、宮古市都市計画マスタープランでは、都市づくりの目標として「中心拠点の賑わいと活力ある産業を育む都市づくり」「子供から高齢者まで、安全・安心で快適に住み続けられる都市づくり」「森・川・海の共生と、地域資源を活かした魅力ある都市づくり」「地域の元気を支える連携・交流さかんな都市づくり」「市民参画と協働によるまちづくり」を都市づくりの目標としてきました。
- これらの計画における将来像を踏まえ、持続可能なまちを実現するためのエリアごとのまちのイメージを次のように設定しました。

表 エリアの設定とまちのイメージ (1/2)



エリア	まちのイメージ	
<p>まちなか居住 エリア</p> <p>中心市街地周辺の 山口団地 南町 うみどり公園 館合近隣公園 に囲まれた 区域内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高次な都市機能が集積している中心拠点があることから、日常生活に必要な施設が身近にそろって便利な暮らしをしています ○地域に長く暮らしている人、転入してきた人など、利便性の高いまちなかで多世代が交流し賑わいのある暮らしをしています ○活用可能な空き家や低未利用地を有効活用し、若い世代や転入者の定住や起業が促進されています ○公共交通の結節点として、通勤や通学などが便利で日常生活で自動車を利用せず暮らしています ○エリア内の歩行環境の整備や駐車場の適正配置により、歩きやすく歩いて楽しい環境が整っています 	
<p>観光・交流 エリア</p> <p>宮古港出崎周辺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○三陸を代表する景勝地である浄土ヶ浜を中心に、豊かな自然による貴重な観光資源が集中し、世界中から多くの観光客が訪れています ○浄土ヶ浜と出崎埠頭は遊覧船でつながっており、高い回遊性を持った観光プログラムを展開し、水産業と観光業の発展に寄与しています ○利便性の高い公共交通で結ばれた中心拠点との連携により交流人口が拡大し、にぎわいが創出されています 	

表 エリアの設定とまちのイメージ (2/2)

エリア	まちのイメージ	
<p>市街地居住 エリア</p> <p>まちなか居住エリア 観光・交流エリア 工業・流通エリア を除いた 市街地ゾーン内 (田老地区を除く用途 地域内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○まちなか居住エリア周辺の基盤の整った市街地を生かした快適な暮らしをしています ○利便性の高い公共交通の駅やバス停の周辺で、日常的に公共交通を利用した暮らしをしています 	
<p>工業・流通 エリア</p> <p>藤原埠頭周辺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基盤産業の集積や労働生産性が向上し、生産年齢人口が減少する中でも、競争力のある地域経済を維持しています ○中心拠点と工業・流通エリアの公共交通ネットワークが強化され、就業者が公共交通により通勤しやすくなっています ○陸路及び海路の広域交通を生かし、生産と物流が活性化されています 	
<p>地域生活 エリア</p> <p>津軽石地区 田老地区 新里地区 川井地区 崎山地区 花輪地区 重茂地区 小国地区 門馬地区 の中心部周辺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○都市機能が維持・集積している地域拠点があり、主要な公共交通で中心拠点と繋がっていることから、森・川・海など地域資源を身近に感じながら、利便性の高い暮らしをしています ○身近な公共施設等を中心とした日常生活を支える生活拠点があり、公共交通で地域拠点と繋がることで、地域の暮らしやコミュニティが維持されています 	 <p style="text-align: center;">地域拠点周辺</p>  <p style="text-align: center;">生活拠点周辺</p>
<p>臨海部定住 エリア</p> <p>津軽石地区 田老地区 重茂地区 の中心部を除いた 臨海部定住ゾーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな海岸・海洋資源の保全と共生を図りつつ、地域に根差した産業や暮らしを維持しています 	
<p>里山共生 エリア</p> <p>新里地区 川井地区 小国地区 門馬地区 の中心部を除いた 里山共生ゾーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道路、河川等に沿って形成される集落地では、豊かな農林業資源や美しい景観と恵みをもたらす閉伊川水系と共生を図りつつ、地域に根差した産業や暮らしを維持しています 	

(3) 拠点の設定方針

1) 中心拠点

- 宮古駅周辺を「中心拠点」に位置付けます。
- 市全体を利用圏とする高次な都市機能を維持・誘導します。
- 公共交通等の結節点及び行政・商業・業務・観光・交流等の機能集積を生かし、商業・生活サービス機能や交流、回遊・滞留環境の向上などを図り、魅力と賑わいある拠点形成を目指します。

2) 地域拠点

- 田老地区、津軽石地区、新里地区、川井地区、鍬ヶ崎地区、崎山地区、花輪地区、磯鶏地区の各中心部を「地域拠点」に設定します。
- 各地域を利用圏とした都市機能を維持・誘導します。
- 各地域の中心部等において、公共施設や観光・交流施設等を生かし、地域住民等が集う個性と魅力ある拠点の形成を目指します。

3) 生活拠点

- 重茂地区、門馬地区、小国地区の各中心部を「生活拠点」として位置付けます。
- 各地区を利用圏とした生活を支える都市機能を維持・誘導します。
- 各地区の中心部において、公共施設や観光・交流施設等を生かし、地域住民等が集う個性と魅力ある拠点の形成を目指します。

4) 観光・交流拠点

- 宮古港出崎周辺地区を「観光・交流拠点」として位置付けます。
- 水産振興や観光・交流の拠点としての強化を図り、賑わいある拠点形成を目指します。
- 宮古駅周辺地区と連携して広域拠点機能の強化を目指し、観光・交流機能、回遊性の向上を図ります。

5) 医療・福祉拠点

- 県立宮古病院周辺を「医療・福祉拠点」として位置付けます。
- 広域的な医療・福祉の拠点としての強化を図り、高齢化社会を支える地域医療の拠点形成を目指します。
- 宮古駅周辺地区と連携して広域拠点機能の強化を目指し、医療・福祉機能、アクセス性の向上を図ります。

(4) ネットワークの設定方針

- 交通ネットワークは、宮古市地域公共交通計画の「宮古市が目指す公共交通体系の形」を踏まえて設定します。

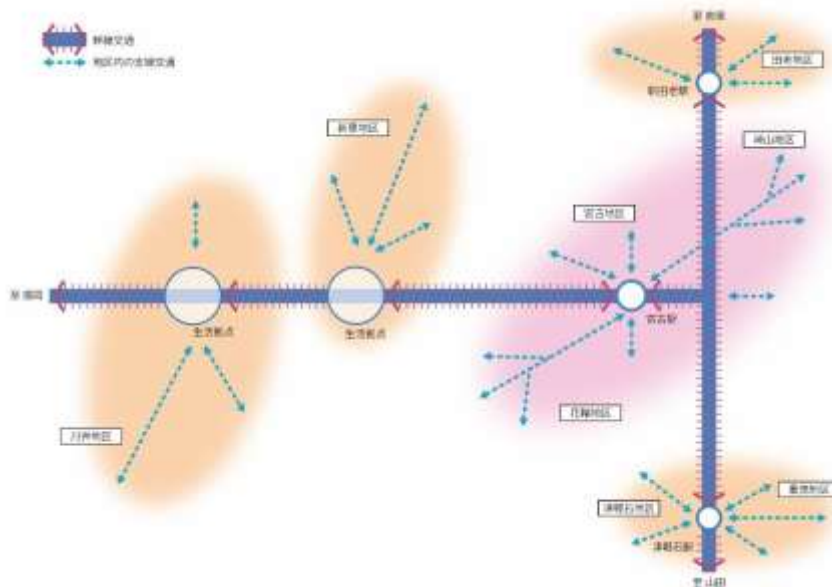
宮古市地域公共交通計画

都市構造の特徴

- 市の中心部を結節点として鉄道と国道の双方が交通の軸を形成
- 旧市町村に由来する8地区をつなぐ

目指す公共交通体系

- 国道又は国道と並行して走る路線バスと鉄道を「幹線交通」として位置付け
- 幹線交通を軸として8地区をつなぐ路線バス等を「支線交通」として位置付け
- 幹線交通と支線交通で8地区をつなぐ形を基本とする



1) 基幹的な公共交通軸

- 宮古市地域公共交通計画の「宮古市が目指す公共交通体系の形」の幹線交通を「広域連携軸」として位置付けます。
- 広域連携軸は、中心拠点と地域拠点を結ぶ都市軸として、将来にわたり一定以上のサービス水準を確保する公共交通が運行する軸として位置付けます。
- 広域連携軸は南北軸と東西軸で構成され、南北軸はリアス線、国道45号、東西軸は国道106号、国道340号、JR山田線をそれぞれ位置づけ、鉄道及び路線バスが連携してサービス水準の確保を図るものとします。

2) その他公共交通軸

- 宮古市地域公共交通計画の「宮古市が目指す公共交通体系の形」の支線交通を「生活連携軸」として位置付けます。
- 生活連携軸は中心拠点及び地域拠点と周辺集落を結ぶ軸として、様々な交通機関が連携しながら地域コミュニティの維持や市内移動の補完を図ります。

(5) 目指すべき都市の骨格構造

■拠点及び軸の配置

拠点		設定方針
中心拠点	宮古駅周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古駅周辺を「中心拠点」に位置付けます。 ○市全体を利用圏とする高次な都市機能を維持・誘導します。 ○公共交通等の結節点及び行政・商業・業務・観光・交流等の機能集積を生かし、商業・生活サービス機能や交流、回遊・滞留環境の向上などを図り、魅力と賑わいある拠点形成を目指します。
地域拠点	津軽石地区 田老地区 新里地区 川井地区 鎌ヶ崎地区 崎山地区 花輪地区 磯鶏地区	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域の中心部を「地域拠点」に設定します。 ○各地域を利用圏とした都市機能を維持・誘導します。 ○各地域の中心部等において、公共施設や観光・交流施設等を生かし、地域住民等が集う個性と魅力ある拠点の形成を目指します。
生活拠点	重茂地区 小国地区 門馬地区	<ul style="list-style-type: none"> ○重茂地区、門馬地区、小国地区の各中心部を「生活拠点」に設定します。 ○各地区を利用圏とした生活を支える都市機能を維持・誘導します。 ○各地区の中心部において、公共施設や観光・交流施設等を生かし、地域住民等が集う個性と魅力ある拠点の形成を目指します。
観光・交流拠点	宮古港出崎周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古港出崎周辺地区を「観光・交流拠点」として位置付けます。 ○宮古港出崎周辺地区は、水産振興や観光・交流の拠点としての強化を図り、賑わいある拠点形成を目指します。 ○宮古駅周辺地区と連携して広域拠点機能の強化を目指し、観光・交流機能、回遊性の向上を図ります。
医療・福祉拠点	県立宮古病院周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○県立宮古病院周辺を「医療・福祉拠点」として位置付けます。 ○広域的な医療・福祉の拠点としての強化を図り、高齢化社会を支える地域医療の拠点形成を目指します。 ○宮古駅周辺地区と連携して広域拠点機能の強化を目指し、医療・福祉機能、アクセス性の向上を図ります。
基幹的な公共交通軸	広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ○リアス線、JR山田線、三陸沿岸道路、国道45号、国道106号、国道340号を「広域連携軸」に位置づけます。 ○中心拠点と地域拠点を結ぶ都市軸として、鉄道及び路線バスが連携してサービス水準の確保を図るものとします。
その他公共交通軸	生活連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ○中心拠点及び地域拠点と周辺集落を結ぶ路線を「生活連携軸」に位置づけます。 ○中心拠点及び地域拠点と周辺集落を結ぶ軸として、様々な交通機関が連携しながら地域コミュニティの維持や市内移動の補完を図ります。

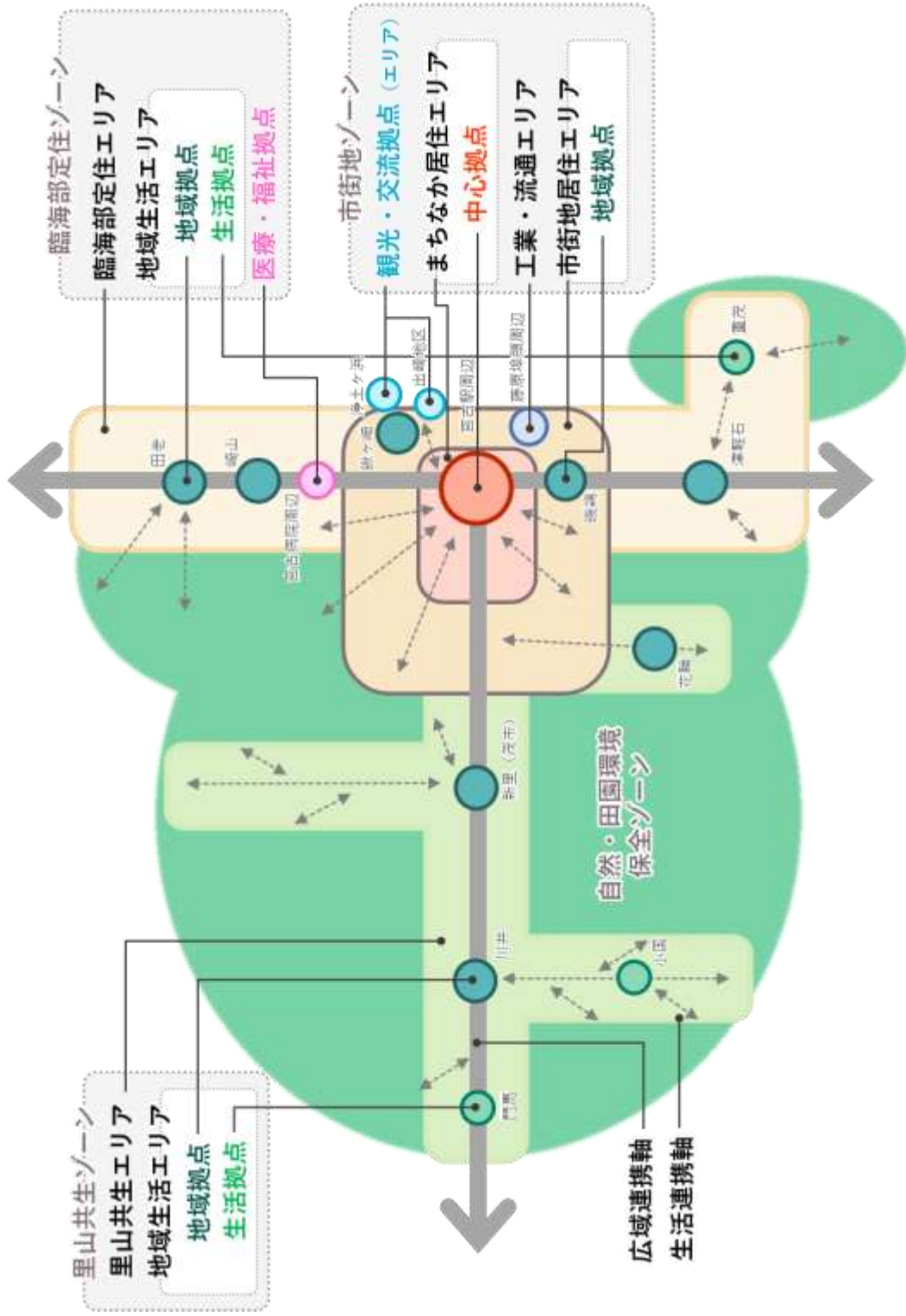


図 目指すべき都市の骨格構造のイメージ